4　コスト計算書

令和６年度（令和５年度分）公共施設のコスト計算書は、213 施設を対象に作成した。

令和５年度は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが５類に移行したこともあり、利用延べ人数が令和３年度に比べ約 100 万人、令和４年度に比べ約 14 万人増加している。それに伴い、令和２年度には１億 1,684 万円まで落ち込んだ使用料収入が、令和５年度では１億 6,282 万円まで回復している。

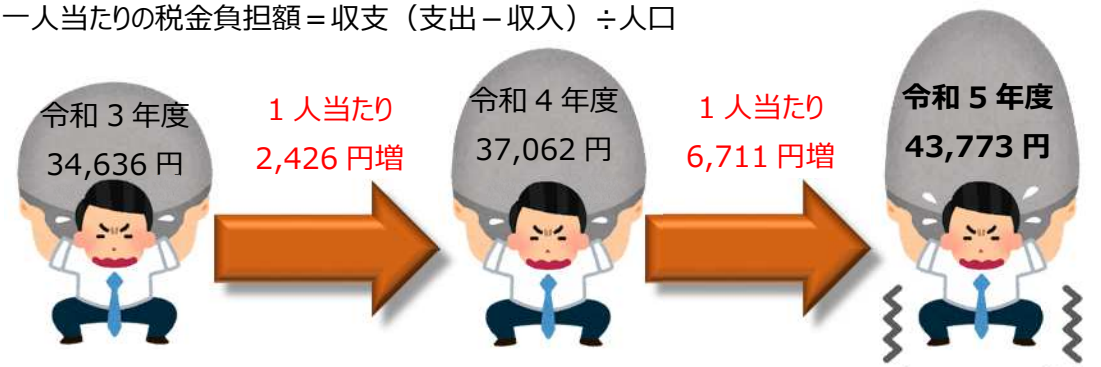
支出の面では、INPEX 酒田アリーナ（国体記念体育館）の大規模改修工事のほか、複数の小学校でエアコン改修工事を行うなど、既存施設の改修に係る費用が増加している。なお、工事費を除いた支出について、維持管理経費が令和元年度から年々増加していたが、令和５年度は若干の減少となった。保養観光施設、保健福祉施設等の修繕費が減少したことによる影響が大きい。

人口が減少している一方で、支出は増加しているため、市民一人当たりの税金負担額は 43,773 円となり、令和４年度に比べ 6,711 円増加している。

今後、燃料費等の増加や施設の老朽化等に伴う修繕費の増加も見込まれるため、施設の統廃合も含めた、施設の効果的・効率的な管理運営が求められる。

市民一人当たりの税金負担額

※市民一人当たりの税金負担額＝収支（支出－収入）÷人口



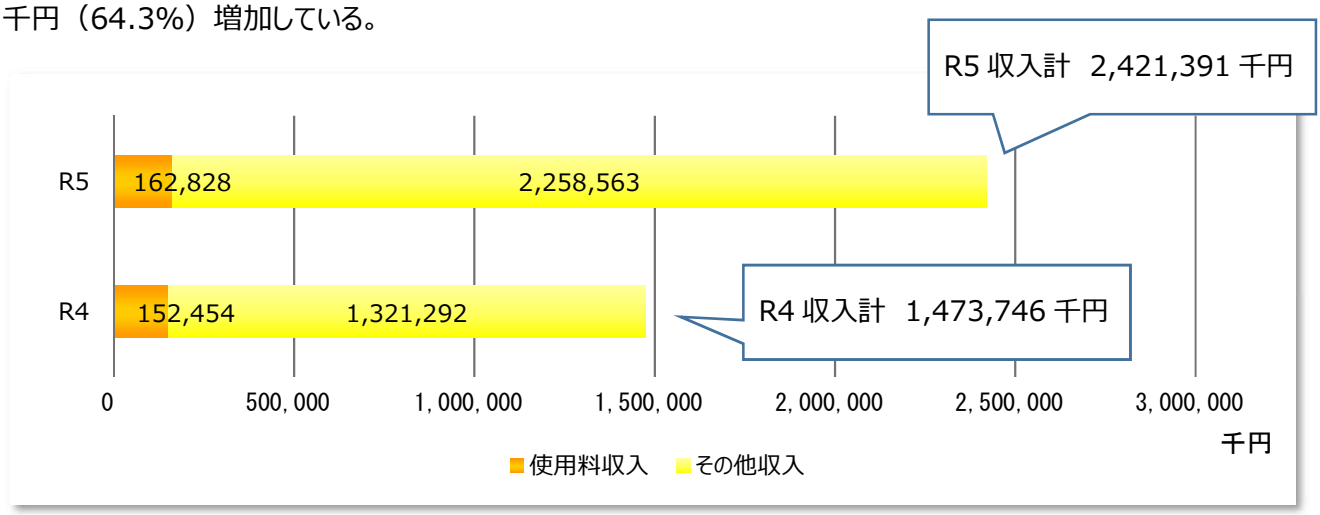
人口 98,182 人	人口 96,777 人	人口 95,031 人
（令和４年３月 31 日現在）	（令和５年３月 31 日現在）	（令和６年３月 31 日現在）

収　入

使用料収入は、162,828 千円で、令和 4 年度に比べ 10,374 千円（6.8%）増加している。これは多くの施設で、令和 4 年度に比べ利用延べ人数が増加したことによるものである。

その他収入は、2,258,563 千円で令和 4 年度に比べ 937,271 千円（70.9%）増加している。INPEX 酒田アリーナ（国体記念体育館）の工事請負費に対する市債等の充当額が増加したことが、主な要因となっている。

使用料収入とその他収入を合わせた収入の合計は、2,421,391 千円で、令和 4 年度に比べ 947,645 千円（64.3%）増加している。

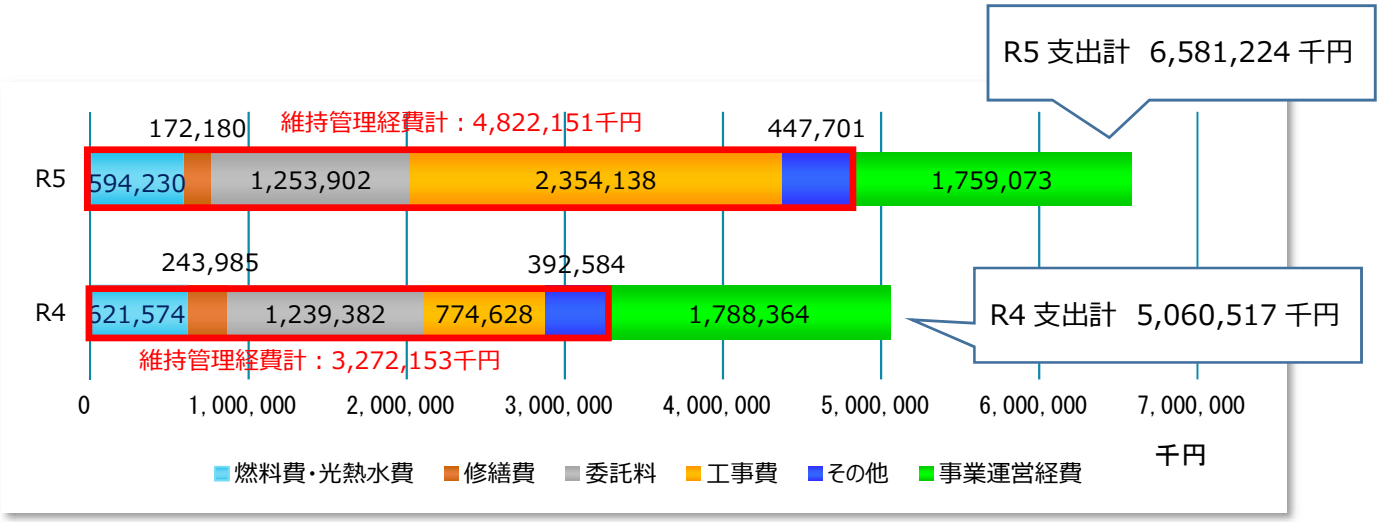


支　出

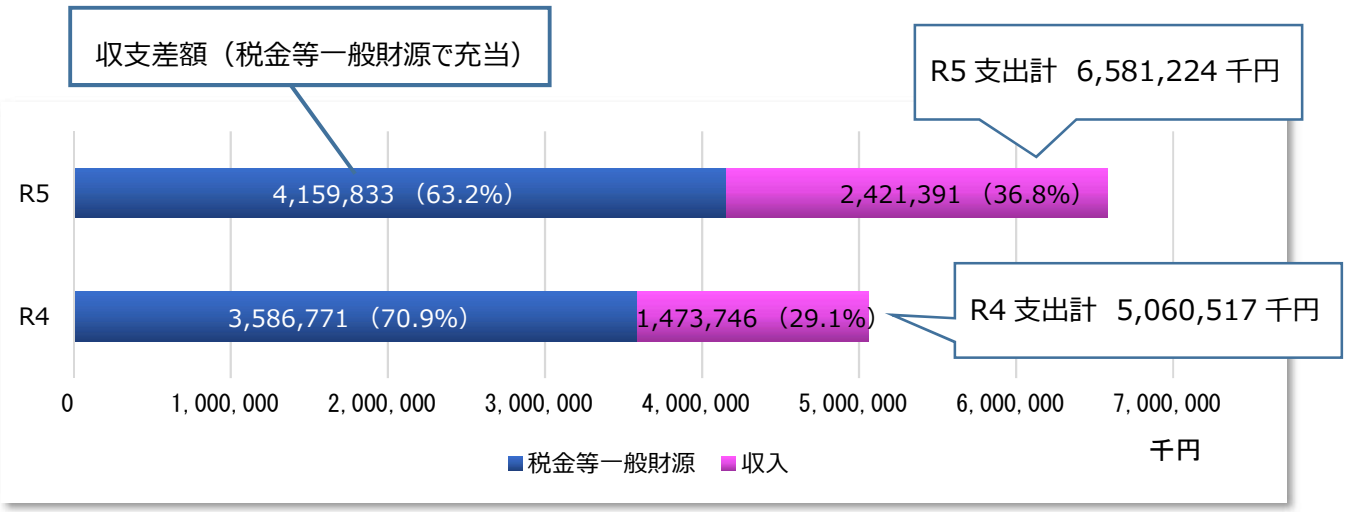
維持管理経費は、4,822,151 千円で、令和 4 年度に比べ 1,549,998 千円（47.4%）増加している。燃料費・光熱水費が 27,344 千円（4.4%）、修繕費が 71,805 千円（29.4%）減少した一方で、INPEX 酒田アリーナ（国体記念体育館）などの工事請負費が 1,579,510 千円（203.9%）増加したことが大きな要因となっている。

事業運営経費は、1,759,073 千円で、令和 4 年度に比べ 29,291 千円（1.6%）減少している。減少した主な要因として、中央公民館、資料館の人件費減による影響が大きい。

維持管理経費と事業運営経費を合わせた支出の合計は、6,581,224 千円で、令和 4 年度に比べ 1,520,707　千円（30.1%）増加している。



収　支

使用料収入の他、補助金や市債等の充当額等を含めた収入から維持管理経費と事業運営経費を合わせた支出を差し引いた収支は、△4,159,833 千円となっており、令和 4 年度に比べ 573,062 千円（16.0%）悪化している。その要因の一つとして、INPEX 酒田アリーナ（国体記念体育館）の大規模改修工事が行われたことが挙げられる。

収支のマイナス分には税金等一般財源が充当されているが、充当率は令和 4 年度の 70.9%に比べ、令和 5 年度は 63.2%となっており、割合は減少している。これは、使用料収入の増加のほか、工事請負費に対する市債等の増加により収入が増加したことによるものである。